フォト・エッセイ『旅ノオト』

～ 国境なき音楽紀行 ～

第1回　大地の詩、タンザニア

日頃、音楽を通じて人々と交流し、世界各地を旅することが多い。これら旅の印象と感動を、フォト・エッセイという形でほんの一部分でも日本の皆さんにお届けできればと思う。

平井元喜

©平井元喜

駐タンザニア日本大使公邸で行われた『浦島太郎』のスワヒリ語版初演。音楽は新作。ピアノソロ版も後に書いたが、この時の楽器編成は2つのヴァイオリン（第1ヴァイオリンは、岡田眞樹大使が担当）。

使用可能なピアノがみつからず、植民地時代の大変珍しい一点もののエラール製の巨大なグランドピアノを数ヶ月かけて修繕していただき、リサイタル開催にこぎつけた。鍵盤は、通常より9鍵多い97鍵と横幅も広い。縦はなんと3メートル。

ダルエスサラーム合唱協会メンバーが、タンザニア民謡や祖父・平井康三郎作曲の「平城山」、「ゆりかご」などを熱唱し、歓迎してくれた。ピアノ伴奏者がいなかったため、筆者も飛び入りで参加。

ワークショップ終了後、タンザニアの子どもたちと

アガ・カーン小学校での音楽の授業風景

終演後、熱狂的なスタンディング・オベーションが続く。演奏中、音楽に合わせて体をスウィングさせる聴衆もいた。ピアノリサイタルは、専用コンサートホールがないため、タンザニアで最も格式あるセ レスホテルのボールルームで行われた。

タンザニアは東アフリカにある人口4500万人ほどの国。アフリカ大陸最高峰のキリマンジャロを有し、また野生動物の宝庫としても知られる。

2012年9月、私は外務省と在タンザニア日本大使館の後援でタンザニアとザンジバル※を訪問し、政治経済の中心地ダルエスサラームでピアノリサイタルを開催した。

また、2007年にデンマークで初演して以来、芸術監督・作曲家として続けている国際文化交流・教育プロジェクト〝日本の童話絵本を世界へ〟（朗読・音楽・映像のコラボレーション）を、スワヒリ語・英語・日本語で3夜に渡り上演した。他方、アウトリーチの一環で訪れたアガ・カーン小学校では音楽のワークショップを行い、元気な子どもたちと交流した。

※現在こそタンザニアに属するものの、ザンジバル諸島は広大な白い砂浜と珊瑚礁を持つ内陸と異なるイスラム文化圏。ザンジバル、及び民族音楽タアラブとのセッションについては、次回以降の連載で紹介する予定。

ミクミ国立公園では初の本格サファリを体験、野生動物たちに魅了された。また、巨大なバオバブの木に登ったこと、燃えるような夕日の美しさ、その後現れた闇の世界と満天の星空、真夜中に自分の寝ていたテントをゾウの群れに囲まれた時の恐怖と地響きの凄まじさ、新鮮で美味しいトロピカルフルーツの味、そして、すぐに踊り出す陽気なタンザニアの人々の笑顔、どれも忘れ難い思い出となった。

我々はつい〝アフリカ〟とひと括りにしてしまいがちだが、アフリカ大陸には54もの独立国があり、タンザニアだけでも130余りの部族が住む。本当は、多様性こそアフリカなのかもしれない。

人種・言語・宗教の壁を超えて、音楽は人の心に直接響く。そして、音楽を愛するという一点において、世界に国境など存在しない。この信念を胸に私の旅は続く。

マサイの青年

P51写真：平井元喜 撮影

ひらいもとき

ピアニスト、作曲家。'73年東京生まれ。桐朋高校、慶応義塾大学哲学科、英王立音楽院大学院卒。'96年以来、ロンドンを拠点にヨーロッパ・アフリカ・中近東・アジア・米国・中南米を演奏旅行。米カーネギーホール、英ウィグモアホール、蘭コンセルトヘボウなどでしばしばリサイタルを行う。音楽を通して平和・環境・医療・教育問題にも積極的に取り組む。3.11以降、被災地や欧米各地で復興支援コンサートを続けている。BBC、NHKなどテレビ・ラジオに多数出演。ロンドン在住。

平井元喜公式ウェブサイトにて旅の写真を公開中。もっと世界の風景を見てみたい！という方必見です。
www.motoki-hirai.com